

宗教施設建設に反対

宮崎市内 住民、600人集会

宗教法人「神慈秀明会」(本部・滋賀県)が、宮崎市

郡司分で計画している集会所建設に住民が反発している。

地元の七つの自治会を中心に「建設阻止対策委員会」を立

ち上げ、15日夜には6000人規模の集会を開いた。その場

でも、住民は宗教法人側からの施設建設の説明を拒否。計

画の白紙撤回を引き続き求めていくことを確認した。

計画は、国道220号(宮崎南バイパス)そばに、鉄筋

コンクリート造り(一部は鉄骨)2階建ての集会所を建設

するもの。敷地面積約217

0平方メートル、集会所は延べ床面積約955平方メートル。

住民らは、施設の規模の大きさを指摘。予定地は住宅地

の中で、付近には小中学校もあることから、「平穏な生活

が脅かされる恐れがある」などと主張している。周辺での

信者勧誘への不安も訴える。15日の集会には、宗教法人

側も出席。「市内の現施設が老朽化し、手狭になった。不

動産業者にも依頼して土地を探した」「04年に土地を購入

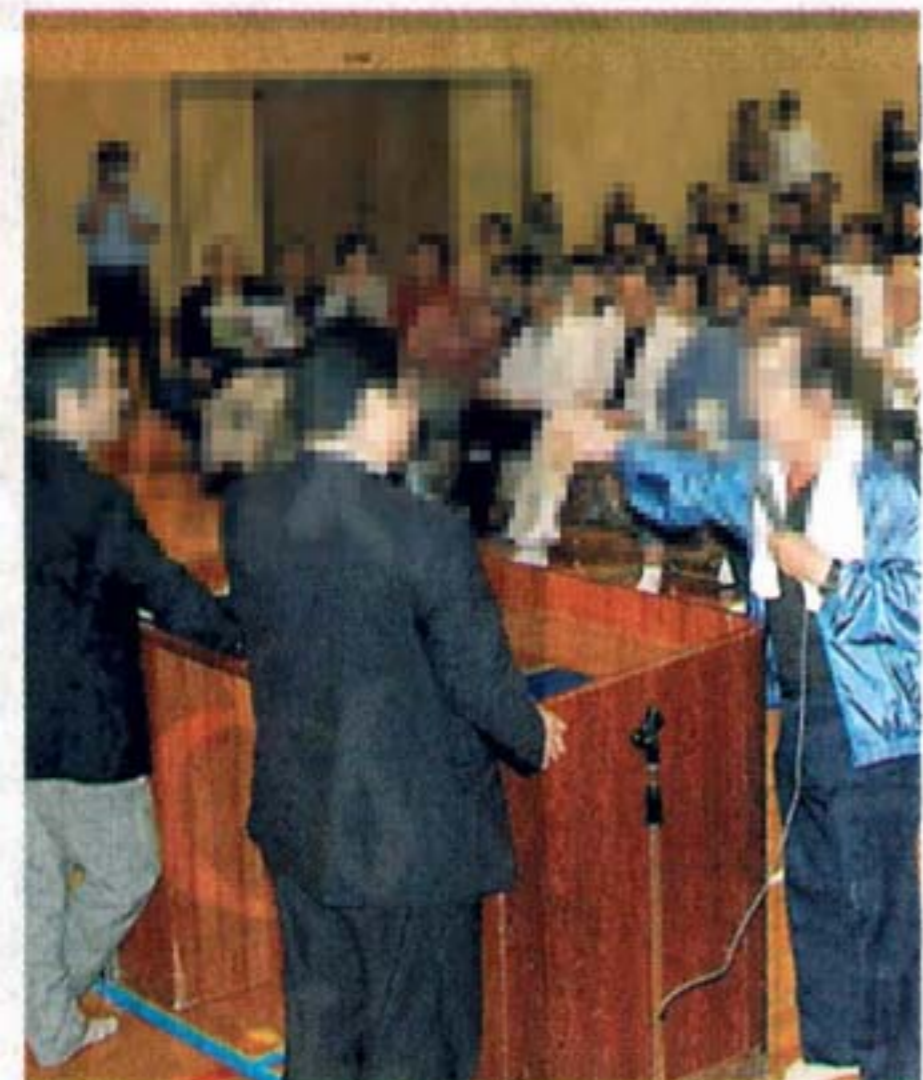
した」などと新しい集会所建設の意図を語り、信者勧誘に

ついては「近所の人を誘うこ

とはしない」と述べた。しかし、施設建設に関する市内の設計事務所や施工業者らからの説明は住民が拒否。「建設反対」を改めて訴え、宗教法人側出席者の退席を求めた。

その後、宗教法人の担当者は、計画を続けるかとの報道陣の問いかけに一切答えず車に乗り込んだが、同行した弁護士は「地元の理解を得て建設を進めたい」と語った。

対策委は先月、建設反対を訴える3712人分の署名を津村重光市長あてに提出。これまで約7千人の署名が集まった。予定地周辺には「建設反対」の立て看板も並び、対策委代表の男性(66)は「予定地周辺での座り込みも辞さない構えで運動を続けたい」と話した。



集会では、施設の説明に立った宗教法人側に地元住民が詰め寄る場面もあった＝宮崎市の本郷小学校